

新時代

No. 202

4月25日

民主主義學生同盟
市立支部 機關紙

學問

临时舊置法自動延長。以降、反ひ、私學助成法案制定への調整がけられてしまつて、先生の権利——政治的、經濟的权利——を制限するものであり、同時にそれは“教育行政者新規制法案”日行組に付するもので、教育全般にせりられてゐる。これを要するに、早急に、これに対する

左記手てに正医生を申しに丁度、日
上豆、C、日豆のハケラスには、昨
日のアラニ運動人後回せなされ、今朝日
上口、臨時指揮云廢棄人回口を告げ等一
をひらとりつゝれる。更に、工場部員治
金けつは、臨時指揮の因時開免、私營財
成も著新辟山の課題の下に、所々主導集

の意義は何ぞ、我々
は向をねうとるべ
きなり

その口以第一に、臨時議會が議長に代表
される反動打撃と固つ固く更に統一を
主導的に行詮する二点。松井隊等の變
動——、暴力事件。モロ更として、一切
ハ民主的運動の手段とはちス萬能無能元
日帥正長を阻止し、議會にもどる一きな行財
げむるはリ。(第三) 一更づゝ議案を議
算、阻止する限りと同時に、議院で監視
しこけるに則ね責任制と八開口を強制して
かりくこと。とりわけ、工農部三、七百

きに賣られる」とく、利
民主的改革——公教育

A-2B

讀書記

卷之三

太陽の御前御室、御前御室、
幸ひ申り、更に軍制を免められんに因
て置け。さるが、一派十倍不外いと遙かにて、
丈政曰、吾公其國の元軍にて、之に之
にことである。全国四境を締結ノコ上て、
自ら余其國は不可ナリとぞ。

丁巳年正月廿二日
日本ヒヒヤマ・ムニ
主考節学生連講集
名に參照しまる。

生徒にしたてた原因に行ひた。安
節曰治
清東精于詩文に尤し學究を重んがつ
私書則
語の之を筆記して御存じる。金乙卯丁未
之日、源氏詩請ひ正月に今事には
聞こえう。

皆無事にて、其上に之を有する者には、之を以て人を
B. 口 ト等即居正言を申せし事は、是れ即日生長所
相、昨 猶猶は別と存立つらうとして、以上である
今朝日 宝書裏言に行、其事一日以前、因一回

直にすの申で行つて、(殿町に) いの
いる二
鑑定のものは、(右) 日軍河下町に、開き
前議までの所は、(左) と後を一にして、主

大曾元即ちを曰つニシ。第三に、單に行
にるる石豆郎のみなり。之れを根本的に想定
して見る。田中園へ赴いて、第一幕は、
智耶別第と汗毛と、楚夢玉、臺、愛貴郎
等の生活権能田中の準備を周辺する。
第二幕は、第四に二つゝ向日と、日暮組を口
著しく争ひ、ひめどりの看守官、権能田中の権能内連常と
一、を

主体として、今日の學生運動が眞正と深刻とつづける中で、一の全般の目指せば向は必づや學生戰
線統一の一歩となるべあらう。

卷之三

事と田心に更に細々とひ工音が直行している。以
て、その書内へ研究、教育性質を、そして管理は別を
置となり。つまり、本業と研究、してとても不毛
でござらう。